

部会2(BLCJ)の2021年度活動報告

-第8回建築BIM推進会議資料-

2022/03/24

BLCJ

部会2(BLCJ)2021年度活動概要

1.今年度の活動の位置づけ

- BIMライブラリ技術研究組合設立及び部会2としての指定から3年度目になる。
- 部会2の活動を促進する官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)予算が4年度目になり、2022年度は取りまとめを行う年度ととらえ、研究に取り組んだ。

2.研究の4課題(以下、BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0を「標準ver2.0」という。)

研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討

研究課題2:設備設計分野における標準ver2.0の検討

研究課題3:仕様情報等との連携の検討

研究課題4:建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討

BLCJ活動報告書
(2022年6月)

3.主な成果

成果1:標準ver2.0の整理

成果2:デジタル標準仕様書・建築確認との連携

成果3:標準化、共通のID・仕様書ID設定の効果・メリット

成果4:標準ver2.0の普及に向けた方策の検討・整理

4.他部会、関係団体との連携

部会1,3,4,5、bSJ、設計三会、JSCA、RUG、BIM Summitと連携して活動

研究活動の全体の構成

1) 建築設計分野における標準ver2.0の検討
1)-1 建築設計分野のライブラリ標準ver2.0の対象範囲の設定
1)-2 建築設計分野のライブラリ標準ver2.0の検討
(1)実用性の向上の観点
(2)建築確認との連携の観点
(3)用語の統一等の標準仕様書との連携の観点
1)-3 サンプル建物での検証
1)-4 多様な建築BIMソフトウェアでの標準ver2.0の実装に向けた検討
1)-5 構造に係る属性情報の整理
2) 設備設計分野における標準ver2.0の検討
2)-1 設備設計分野のライブラリ標準ver2.0の対象範囲の設定
2)-2 設備設計分野のライブラリ標準ver2.0の検討
(1)実用性の向上の観点
(2)建築確認との連携の観点
(3)用語の統一等の標準仕様書との連携の観点
2)-3 サンプル建物での検証
2)-4 多様な建築BIMソフトウェアでの標準ver2.0の実装に向けた検討
3) 仕様情報等の連携の検討・整理
3)-1 公共建築工事標準仕様書のデータベース化と検討
3)-2 建具表、仕上げ表等を介したデータ連携
3)-3 特記と材料・機器選定パターンの整理
3)-4 維持管理・FMの標準化に向けた情報収集・整理
4) 建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討
4)-1 オブジェクト標準ver2.0を基礎としたBIMオブジェクトの供給の検討・整理
(1)オブジェクト標準ver2.0のメリットの整理
(2)オブジェクト標準ver2.0を基礎としたBIMオブジェクトの供給の検討・整理
4)-2 公益的視点からのビジネスモデルの検討・整理
4)-3 外部BIMライブラリサイト等と連携を考慮したBLCJ ライブラリサイトの要件設定等の検討
4)-4 今後検討すべき課題とロードマップの整理

研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討

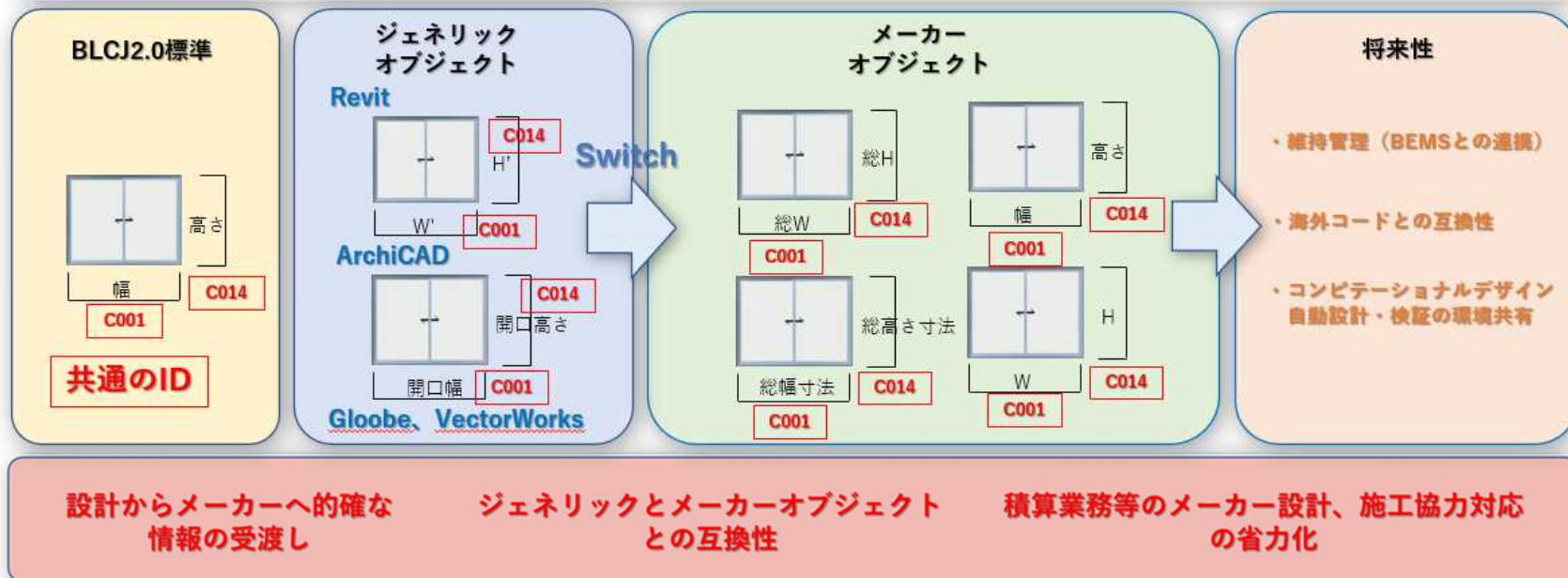
成果1:標準ver2.0の整理、成果2:建築確認との連携、成果3:共通のID

- ・想定する範囲(プロジェクト段階S2~S3、対象建物の規模・用途は延べ面積約10000㎡以下の事務所)
- ・対象オブジェクトは、窓、ドア、シャッター、トイレ、ELV
- ・標準ver1.0を踏まえ、多くの関係者との調整を踏まえ属性項目の**標準ver2.0を整理**した。
- ・**各属性項目に共通のIDを用いて、メーカー間での用語の統一を図るとともに、公共建築工事標準仕様書に使用されている材質・性能等を示す「特記」の情報との整合性を図ることを検討**した。
- ・**部会3とサンプル建物を共有し部会3が建築確認に必要なオブジェクト、属性情報の整理に活用。**

それぞれのBIMオブジェクトの同じ機能、性能、部位、寸法の「名称」をつないでいく。

メーカー間、ベンダー間のオブジェクトの属性項目を連携させる。

BIMで活用される部材情報の共通化、標準化を目指す。



研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討 成果1:標準ver2.0の整理

窓オブジェクトの属性情報

No.	仕様名(BLCJ2.0)	【LIXIL】	【三協アルミ】	【YKK AP】	Revit(設計3会)	ArchiCAD
	公用語にするにふさわしいと思われる仕様名を記入する欄				名称	名称

ドアオブジェクトの属性情報

No.	仕様名(公用語)	三和シャッター工業	文化シャッター	パラメータ名Revit(設計3会)	ArchiCAD
C001	幅				
C002	片引き_可動障子W				
C003	片引き_固定障子W				
C004	たて軸回転_長辺W				
C005	たて軸回転_短辺W				
C006	両開き_親用W				
C007	両開き_子用W				
C008	引換し寸法				
C009	ラフ幅				
C010	W'				
C011	有効開口幅右				
C012	有効開口幅左				
C013	パネル幅				
C014	高さ				
C015	ラフ高				
C016	H'				
C017	有効高さ				
C018	上枠の高さ				
C019	下枠の高さ				

シャッターオブジェクトの属性情報

No.	仕様名(BLCJ2.0)	Revit(設計3会)	ArchiCAD
	公用語にするにふさわしいと思われる仕様名を記入する欄		

ELVオブジェクトの属性情報

No.	仕様名	東芝	日立	FUJITEC	設計3会	Archicad
24	BIM対応					
25	程度・グレード					
26	製品名					
27	工事種別					
28	用途(銘板表示)					
29	用途記号					
30	定員					
31	積載荷重					
32	戸開閉方式					
33	定格速度					
34	出入口数					
35	かご内法(間口)					
36	かご内法(奥行)					
37	天井高さ					
38	かご室高さ					
39	内外法差(間口)					
40	内外法差(奥行)					
41	出入口幅					
42	出入口高さ					

トイレオブジェクトの属性情報

整理番号	BLCJオブジェクト標準V2.0属性項目	【LIXIL】属性項目	【TOTO】属性項目	Revitパラメータ名	ArchiCAD属性項目	共通	大便器	小便器	手洗い・洗	掃除流し	ライニング	手摺
T001	企業コード			企業コード		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T002	企業名	製造元	製造元	製造元	メーカー	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T003	企業URL		URL	URL		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T004	分類コード	品番		分類コード		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T005	分類グループ	名称		分類グループ		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T006	製品グループ			製品グループ	グループタイプ	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
T007	メーカー型番		モデル	モデル	製品ID	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

窓オブジェクト検討協力企業
ドアオブジェクト検討協力企業
シャッターオブジェクト検討協力企業
ELV オブジェクト検討協力企業
トイレオブジェクト検討協力企業

14社(メーカー含む)
14社(メーカー含む)
11社(メーカー含む)
12社(メーカー含む)
12社(メーカー含む)

研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討 成果1:標準ver2.0の整理

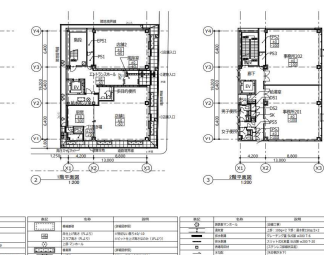
モデル化した建物

©2020(株)日本設計



両者のソフトウェア比較の考察

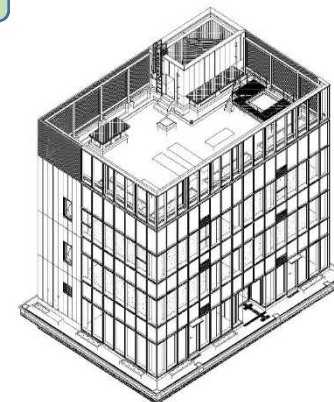
- 大きな相違はない
- テンプレートを揃えるのが手間
- 関連用語の比較が必要
- 部材の分類の調整が必要
- オブジェクト準備段階等の特徴あり



ArchicAD (S3)

Revit (S3)

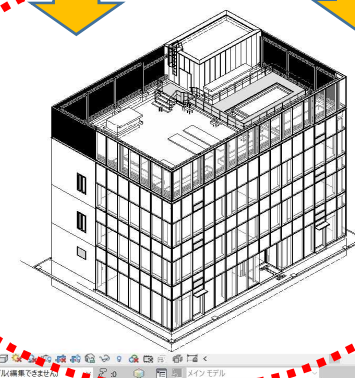
ArchicAD (S3)



部会3と連携
(建築確認)

部会4と連携
(概略積算)

Revit (S3)



建築系ソフトウェアによる展開

2021年度は S3 ArchicADのみ

研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討 効果3:標準化の効果、 効果4:標準ver2.0の普及に向けた方策

- ・標準ver2.0の属性情報を実装するアドオンプログラムに関する共通仕様書を作成（公開予定）
- ・部会2の役割はその開発が共通仕様の内容を満たしていればBLCJ準拠として認定する予定。

アドオンプログラムの要件書 + 共通仕様書

アドオンプログラムの
要件、仕様を検討
[標準ver2.0に基づ
いた属性情報や値を
インプット等]

BLCJ BIMオブジェクト
標準ver2.0

BIM アドオンプログラム共通仕様書

1. 序文

1.1 用語の定義

本ドキュメントで使用する各用語は、以下のような意味で使用する。

・要素
BIM 要素のこと。BIM ソフトで選択する最小単位のオブジェクト。

・パラメータ
値を保持する属性のこと。名称をユーザがつけることができる。また ID が自動で付与される。

・パラメータのインポート
起動中のアドインのメモリ内に、外部（ファイルやクラウドなど）から各種データをメモリに取り込み、このメモリ内のデータを、明示的に BIM ソフトに適用して、はじめて BIM ソフトのデータが変更される。通常のアプリケーションでは 2 が無く、1 → 3 の処理をインポートと呼ぶが、本アドインでは、この 1 → 2 → 3 の処理のことをインポートと呼ぶ。（ただし、機能として、2 の状態から外部ファイルに情報を書き込むことも可能とする）



（この図は、1 の状態から外部ファイルに情報を書き込むことも可能とする）

・パラメータのリンク
数式機能などを使用して、1 つの属性値を複数のパラメータが参照する状態にすることをリンクと呼ぶ。したがって、参照する値を変更すると、リンクしている、すべてのパラメータの値が変更され、同じ値になる。各 BIM ソフト依存の機能である。

公開
予定

ソフトウェアベンダー
が自由に開発

共通仕様書の内容を満たしていればBLCJ準拠として認定する予定。

研究課題1:建築設計分野における標準ver2.0の検討 成果1:標準(ver2.0)の整理

- ・構造設計業務に必要な属性項目と、その際に使いやすい属性項目名称を整理した。
- ・対象部位は、RC、Sの基礎、壁、床。[成果は建築BIM推進会議サイト、BLCJサイトに掲載済み]



BLCJ標準(材料)

パラメータの分類				BLCJ標準			
大分類	中分類	小分類	項目	名称	データ型	備考	
材料情報	鉄筋	柱	径	D	String	種別に径と種類の記号の組み合わせを記述する	
			種類の記号			の組み合わせを記述する	
		梁	径			の組み合わせを記述する	
			種類の記号			の組み合わせを記述する	
		床	径				
			種類の記号				
壁	径						
	種類の記号						
基礎	径						
	種類の記号						
コンクリート等については次期検討項目とする							

BLCJ標準(RC柱_標準、RC丸柱_標準)				BLCJ標準								
部材の種類	大分類	中分類	小分類	項目	名称	データ型	断面情報	配置情報	備考			
RC柱_標準	識別情報			符号	name	String	○					
				種別	kind_column	String	○	以下による性種別。COLUMN (柱)、POST (間柱)				
	配置情報			所属階	floor	String	○	○				
				コンクリート強度	strength_concrete	String	○	○	種別も含む			
	材料情報	鉄筋	種類の記号	柱筋_主筋	strength_main_top	String	○					
				柱筋_帯筋	strength_hoop_top	String	○					
				柱筋_隅止筋	strength_bar_spacing_top	String	○					
				柱筋_芯鉄筋	strength_axial_top	String	○					
				柱筋_主筋	strength_main_bottom	String	○					
				柱筋_帯筋	strength_hoop_bottom	String	○					
				柱筋_隅止筋	strength_bar_spacing_bottom	String	○					
				柱筋_芯鉄筋	strength_axial_bottom	String	○					
	寸法情報	断面		幅	width_X	Double	○					
				高さ	width_Y	Double	○					
				配置情報	共通		主筋	D_main	String	○		
							芯鉄筋	D_axial	String	○		
	柱頭		X方向_片側筋本数		N_main_X_total_top	Integer	○	X方向加力に考慮された鉄筋の総本数 (Y方向加力に考慮されたコーナー鉄筋等も含む)				
			X方向_1段目本数		N_main_X_1st_top	Integer	○					
	柱身		Y方向_片側筋本数		N_main_Y_total_top	Integer	○	Y方向加力に考慮された鉄筋の総本数 (X方向加力に考慮されたコーナー鉄筋等も含む)				
			Y方向_1段目本数		N_main_Y_1st_top	Integer	○					
帯筋		径	D_hoop_top		String	○						
		X方向本数	N_hoop_direction_X_top		Integer	○						
				Y方向本数	N_hoop_direction_Y_top	Integer	○					
				ピッチ	pitch_hoop_top	Double	○					

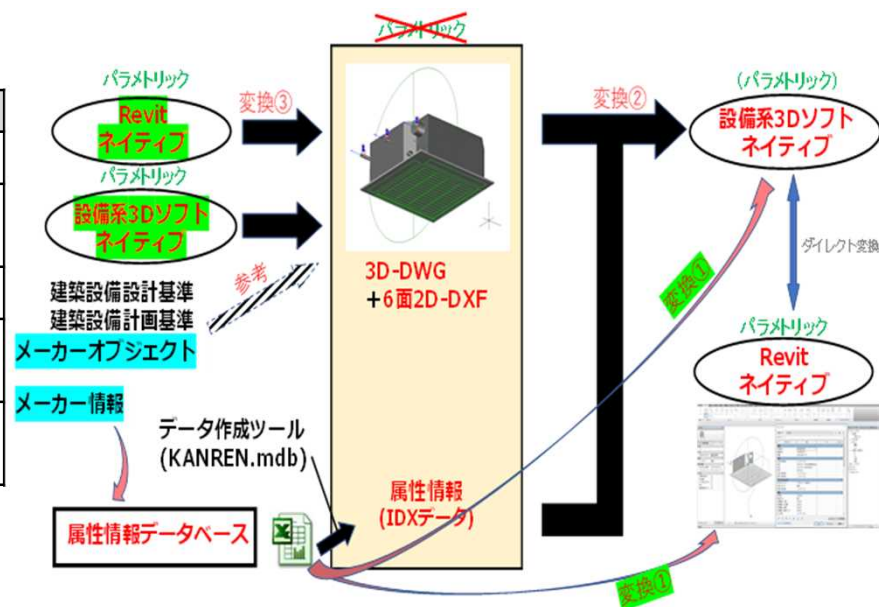
研究課題2:設備設計分野における標準ver2.0の検討

成果1:標準ver2.0の整理、成果2:建築確認との連携、成果3:共通のID

- ・想定する範囲(プロジェクト段階S2~S6、対象建物の規模・用途は延べ面積約10000㎡以下の事務所)
- ・従来検討してきたオブジェクト標準に加えて、建築確認との連携、標準仕様書との連携、用語の統一、実用性の向上等の観点から改善から検討。
- ・BLCJ BIMオブジェクト標準ver1.0を踏まえ、オブジェクト標準における**従来不足していた部分(弱電、防災設備機器等)**に関する**オブジェクト標準を拡張した**。
- ・設備機器で重要な維持管理・FMに引き渡す情報の整理、設備機器のコミショニングに必要な情報を整理した。検討は建築BIM推進会議のモデルプロジェクト(新菱冷熱工業研究所)を対象。
- ・**部会3とサンプル建物を共有し、建築確認に必要なオブジェクト(防火ダンパー等搬送系部材、煙感知器等の防災設備機器など)の属性情報の標準化を行った。**

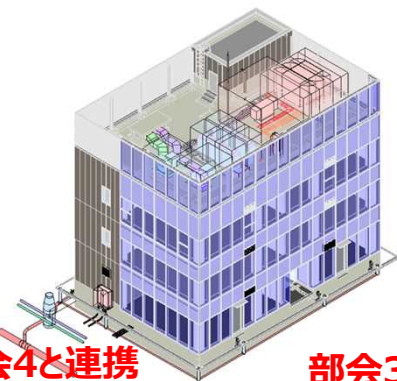
今年度編成追加BIMオブジェクト

カテゴリー	代表的なオブジェクト
制気口	VHS、角型アネモ、丸型アネモ、排煙口
ダンパー	<u>風量調整ダンパー、防火ダンパー、防火防煙ダンパー、SMD</u>
バルブ	仕切弁、バタフライ弁、ボール弁
消火器具	<u>屋内消火栓、スプリンクラーヘッド、アラーム弁、送水口、末端試験弁、連結送水管放水口</u>
防災器具	<u>熱感知器(差動式)、熱感知器(定温式)、煙感知器、スピーカ、発信機、受信機</u>

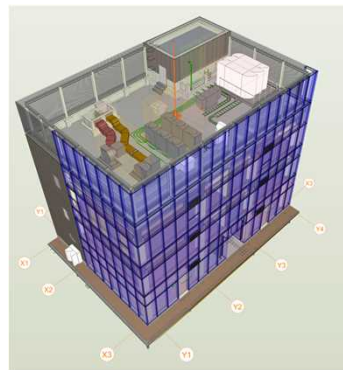


研究課題2:設備設計分野における標準ver2.0の検討・整理 成果1:標準ver2.0の整理

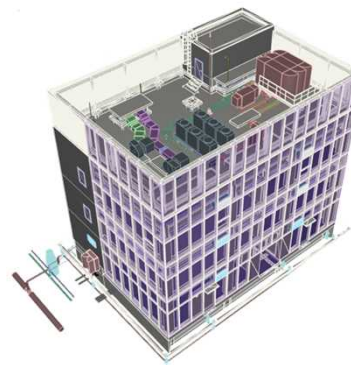
RevitモデルS4



RebroモデルS4



CADWe'll TfasモデルS4

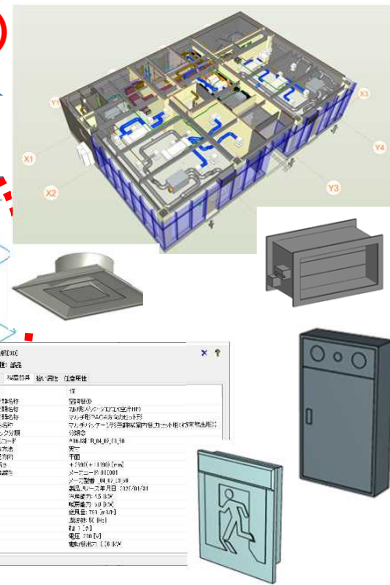
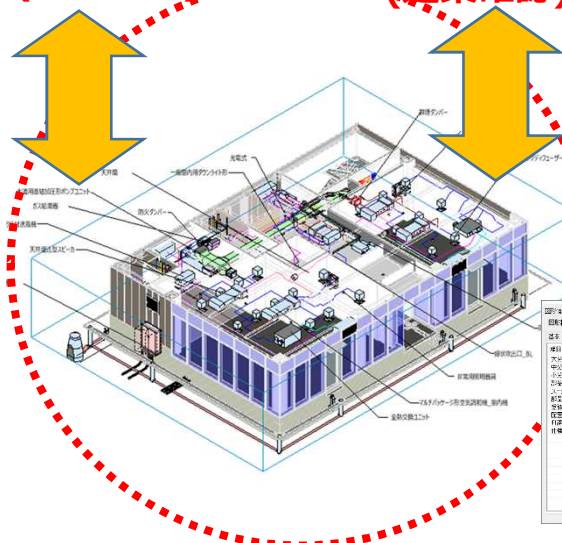


CADEWA Smart モデルS4

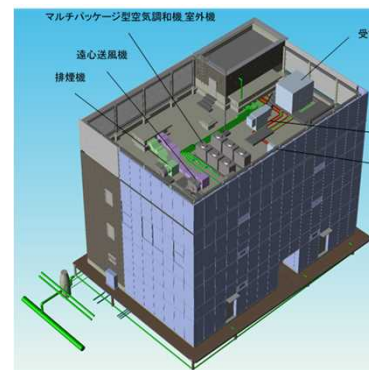


部会4と連携
(概略積算)

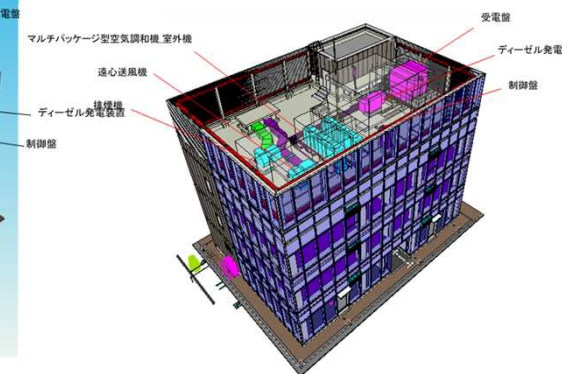
部会3と連携
(建築確認)



FILDER CeedモデルS4



Design DraftモデルS4



設備系ソフトウェアによる展開 : Revit-MEP, Rebro, CADWe'll Tfas/ Linx
CADEWA Smart, FILDER Ceed, Design Draft

研究課題2:設備設計分野における標準ver2.0の検討・整理
成果1:標準ver2.0の整理、成果2:建築確認との連携、成果3:共通のID

- ・設備設計分野における標準ver2.0βを整理した。
- ・標準ver2.0に適合するオブジェクト標準ver2.0βを用いたジェネリックオブジェクトを作成。
- ・メーカーオブジェクト作成支援のための、属性作成・支援チェックソフトの整備、設備CADベンダーのインポート整備、実装に向けた設備オブジェクトライブラリの拡充、関連データベースの編成整備を進める。

BLCJ仕様属性一覧Ver2.0β

[illegible]

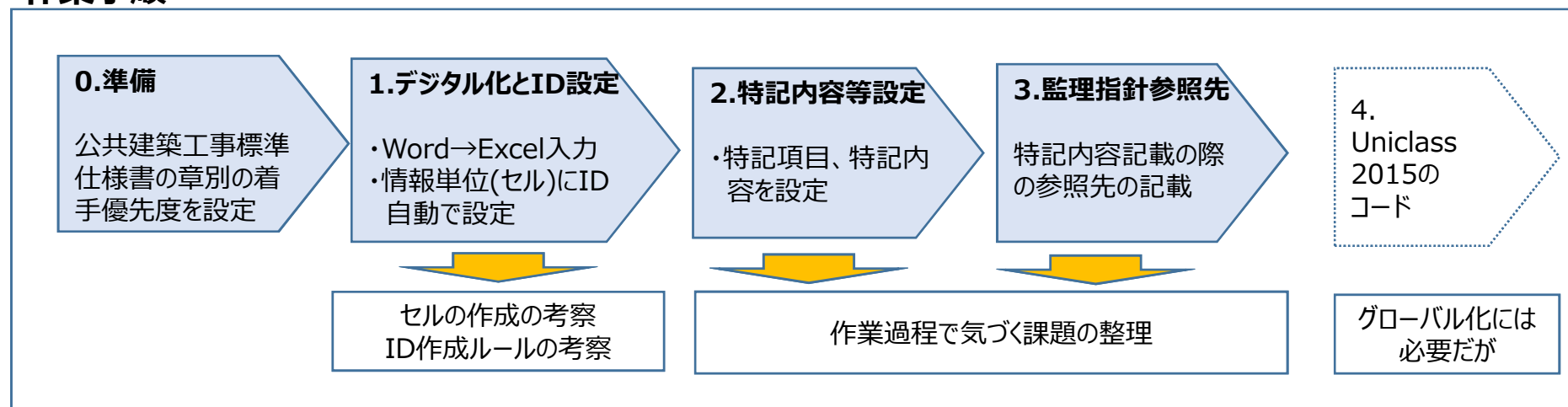
研究課題3:仕様情報、建築確認との連携の検討・整理 成果2:デジタル標準仕様書との連携、成果3:共通のID・仕様書ID

- ・公共建築工事標準仕様書(建築工事編、電気設備工事編、機械設備工事編)のデジタル化・データベース化を行った
- ・データベース化では、「一連の文章を章、節、項等で区切り」「その区切りに仕様書IDを設定し」「特記を含む情報と含まない情報に区分し」「特記内容を明示し」「特記作成の際の建築工事監理指針の参照先を示した」。

Uniclass 2015 のコード	仕様書ID	章	節	項			特記項目	特記内容	建築工事監理指針
	AH3116020202a	1 6	2	2	(2)	(ア)	耐風圧性	S-4,S-5,S-6	建築R1-16.1.7
	AH3116020202b						気密性	A-3,A-4	建築R1-16.1.7
	AH31-16020202c						水密性	W-4,W-5	建築R1-16.1.7
	AH31-16020202d						枠の見込み寸法	特記ない場合70mm	建築R1-16.2.4

[情報単位セル]

作業手順



研究課題3:仕様情報、建築確認との連携の検討・整理 成果2:デジタル標準仕様書との連携、成果3:共通のID・仕様書ID

- ・**公共建築工事標準仕様書(建築工事編、電気設備工事編、機械設備工事編)のデータベース化。**
- ・データベース化では、「一連の文章を章、節、項等で区切り」「その区切りに**仕様書IDを設定し**」「特記を含むものと含まないものに区分し」「特記の選択肢を明示し」「特記の選択の際の参照先を示した」。

BLCJ BIMオブジェクト標準ver2.0

アルミニウム製建具 「属性情報の例」	記載の例	共通のID 仕様書IDが適用できる場合は利用
耐風圧性	S-4,S-5,S-6	共通のID
気密性	A-3,A-4	共通のID
水密性	W-4,W-5	共通のID
枠の見込み寸法	70mm	共通のID
表面処理の種別	AB-1種(無着色陽極酸化被膜) AB-2種(着色陽極酸化被膜)	共通のID
BIMモデル作成	建具の寸法	共通のID  × (仕様には該当しない)
BIMモデル作成	建具の位置	共通のID  × (仕様には該当しない)

共通のID・仕様書IDの活用により、

- ・メーカー間で同じ用語が異なる表現である状況を統一。
- ・BIMと仕様書、積算、調達、施工、維持管理等との連携が可能(次スライド参照)

公共建築工事標準仕様書のデータベース

標準使用書の 「章、節、項等」をID化	アルミニウム製建具 「特記項目」の例	記載の例
AH31-16020202a	耐風圧性	S-4,S-5,S-6
AH31-16020202b	気密性	A-3,A-4
AH31-16020202c	水密性	W-4,W-5
AH31-16020202d	枠の見込み寸法	70mm
AH31-16020404	表面処理の種別	AB-1種(無着色陽極酸化被膜) AB-2種(着色陽極酸化被膜)

+ [特記を含む項目群(上)]
[特記を含まない項目群(下)]

	「特記項目」を含まない項目	記載の例
AH31-16010201a	基本要求品質	建具工事に用いる材料は、所定のものであること。
AH31-16020301	材料	押出形材は、JIS H 4100 (アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材) による。

研究課題3:仕様情報、建築確認との連携の検討・整理 成果2:デジタル標準仕様書との連携、成果3:共通のID・仕様書ID

・仕様書ID、デジタル化された仕様情報の活用に関して以下のように整理した。

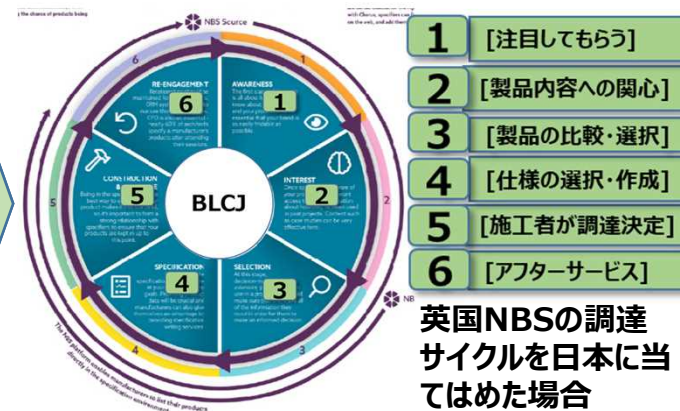
仕様書適用の
デジタル的な対応

公共建築工事標準仕様書データベース
仕様書IDのデータ/特記あり項目のデータ/特記なし項目のデータ

	① BIMの属 性情報と 連携	② 製品検索 ・比較に 活用	③ 建築確認 に活用※4	④ 積算に 活用※5	⑤ 施工計画 に活用	⑥ 引渡に 活用	⑦ 維持管理 に活用
用語統一	●	●	●	●	●※6	●	●
仕様書IDによる分類		●※1		●※3		●	●
品質・性能等が共通 (特記による)	●	●※2	●	●	●	●	●
製作・施工等が共通 (特記には含まれない)		●		●	●		

- ※1 メーカーの製品にIDが付けられていることが必要
- ※2 メーカーの製品の品質・性能が標準仕様書に基づいた標準的な表示が必要
- ※3 積算の集計分類との対応が必要
- ※4 部会3と連携
- ※5 部会4と連携
- ※6 部会5と連携

●右図はNBSのSourceとChorusをもとに日本での機能に修正したもの。
(上図①、②に対応)
●③から⑦への対応は今後の検討課題。



研究課題3:仕様情報、建築確認との連携の検討・整理 成果2:デジタル標準仕様書との連携

・サンプル建物等のBIM設計図書の建具表、仕上げ表等を介したデータ連携を検討した。

(BIMオブジェクトの属性情報をexcel形式にエクスポートし、そのexcelを修正してBIMオブジェクトの属性情報にインポート)

・また上記作業が行えるデータの拡張が可能かも検討した。

・この検討を今年度はRevitとGloobeで各々検討した。

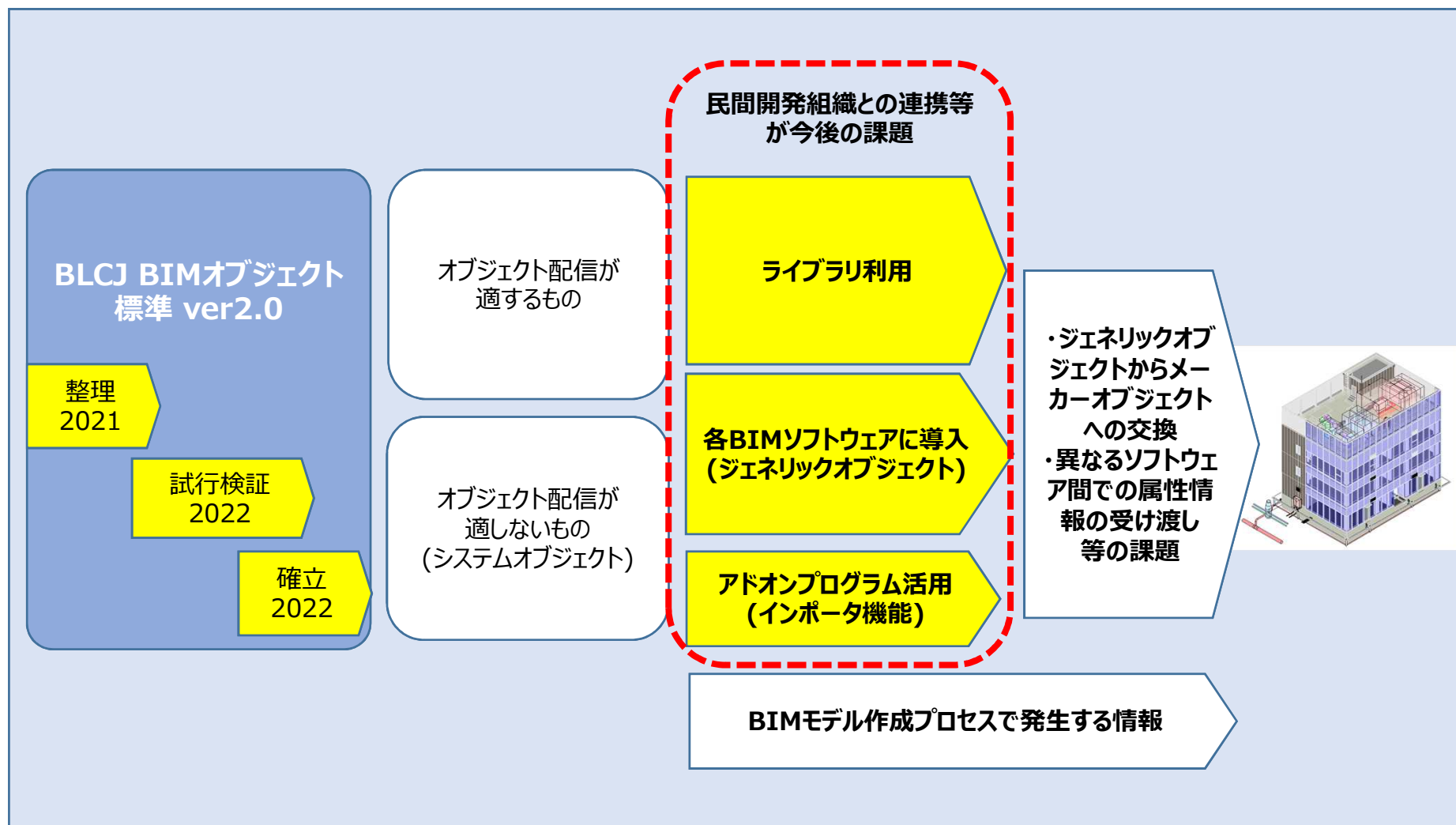
考察1：BIMでの入力が一般的な情報(図中 ) と、excelから入力できる情報がある。(図中 )

考察2：建具性能等、excelで入力できる情報は、オブジェクトごとに入力するより、一括入力が効率的と考えられる。

建具種別	建具番号	姿図番号	取付 レベル	取付場所	建具性能				形式	個数	建具主寸法		建具補助寸法	枠				くつすり		
					防火 性能	遮音 性能	気密 性能	その他			W	H		W'	H'	形状	見込	材質	仕上	形状
MSF	1	H1	1FL	エントランスホール	不			可P		1	2570	500	0	0		St	SOP			
SD	1	D-5	1FL	階段	F1Sc	-		-	片開き扉欄間付き	1	900	2100		2400	B	St	SOP	B2	SUS	
SD	2	D-5	1FL	PS・EPS	F2c				片開き扉欄間付き	1	550	2100				St	SOP	B1	SUS	
SD	3	D-9	1FL	多目的便所	不c				片引き戸	1	850	2100			E	-	St	SOP	A	SUS
SD	4	D-6	1FL	給水 ポンプ室	F2c	T-2	-	-	親子扉	1	1350	2100	900	0	A	-	St	SOP	C2	SUS
SD	5	D-1	1FL	厨房		-	SAT	-	片開き扉	1	800	2100			A	-	SUS	HL	D1	SUS
SD	6	D-2	1FL	PS		-	SAT	-	点検扉	1	450	1200			A	-	SUS	HL	D1	SUS
SD	7	D-9	1FL	ゴミ置き場		-	-	-	片引き戸	1	800	2100			E	-	SUS	HL	E	SUS
SD	8	D-1	2~3FL	階段	F1Sc	-	-	-	片開き扉	2	900	2100		0	A	-	St	SOP	B2	SUS
SD	9	D-7	2・3FL	事務室201~302	不c	-	-	-	両開き扉	4	1800	2100	900		A	-	St	SOP	B	SUS
SD	10	D-3	2・3FL	事務室201・301	不c	-	-	-	片開き扉	2	900	2100			A	-	St	SOP	B	SUS
SD	11	D-1	2・3FL	DS	F1Sc	-	-	-	片開き扉	4	600	2100			A	-	St	SOP	B2	SUS
SD	12	D-1	2・3FL	SK	不c	-	-	-	片開き扉	2	550	2100			B	-	St	SOP	B1	SUS
SD	13	D-4	2・3FL	女子便所・男子便所	不c	-	-	-	片開き扉	4	750	2100			A	-	St	SOP	B	SUS
SD	14	D-1	RFL	階段		-	SAT	-	片開き扉	1	900	1800			A	-	SUS	HL	D1	SUS
SD	15	D-2	RFL	設備立上り1~4		-	SAT	-	点検扉	4	600	600			A	-	SUS	HL	D1	SUS
SF	1	D-10	2・3FL	給湯室	-	-	-	-	三方枠	2	800	2100			G	-	St	SOP	-	-
SSD	1	D-11	1FL	風除室	-	-	-	AUT	片引き自動ドア	1	2570	3165	1230		図示	-	SUS	VR	E	SUS
SSD	2	D-11	1FL	風除室	-	-	-	AUT	片引き自動ドア	1	2570	3000	1230		図示	-	SUS	VR	E	SUS
SSD	3	D-12	1FL	店舗	-	-	-	AUT	片引き自動ドア	2	2520	3100	1220		図示	-	SUS	VR	E	SUS
ST	1	D-1	1~3FL	PS・EPS	不c	-	-	-	点検扉	5	550	2100			B	-	St	SOP	B1	SUS
ST	2	D-1	2・3FL	PS	不c	-	-	-	点検扉	6	600	2100			B	-	St	SOP	B1	SUS
ST	3	D-8	2・3FL	EPS	不c	-	-	-	点検扉	2	1200	2100	600		B	-	St	SOP	B1	SUS

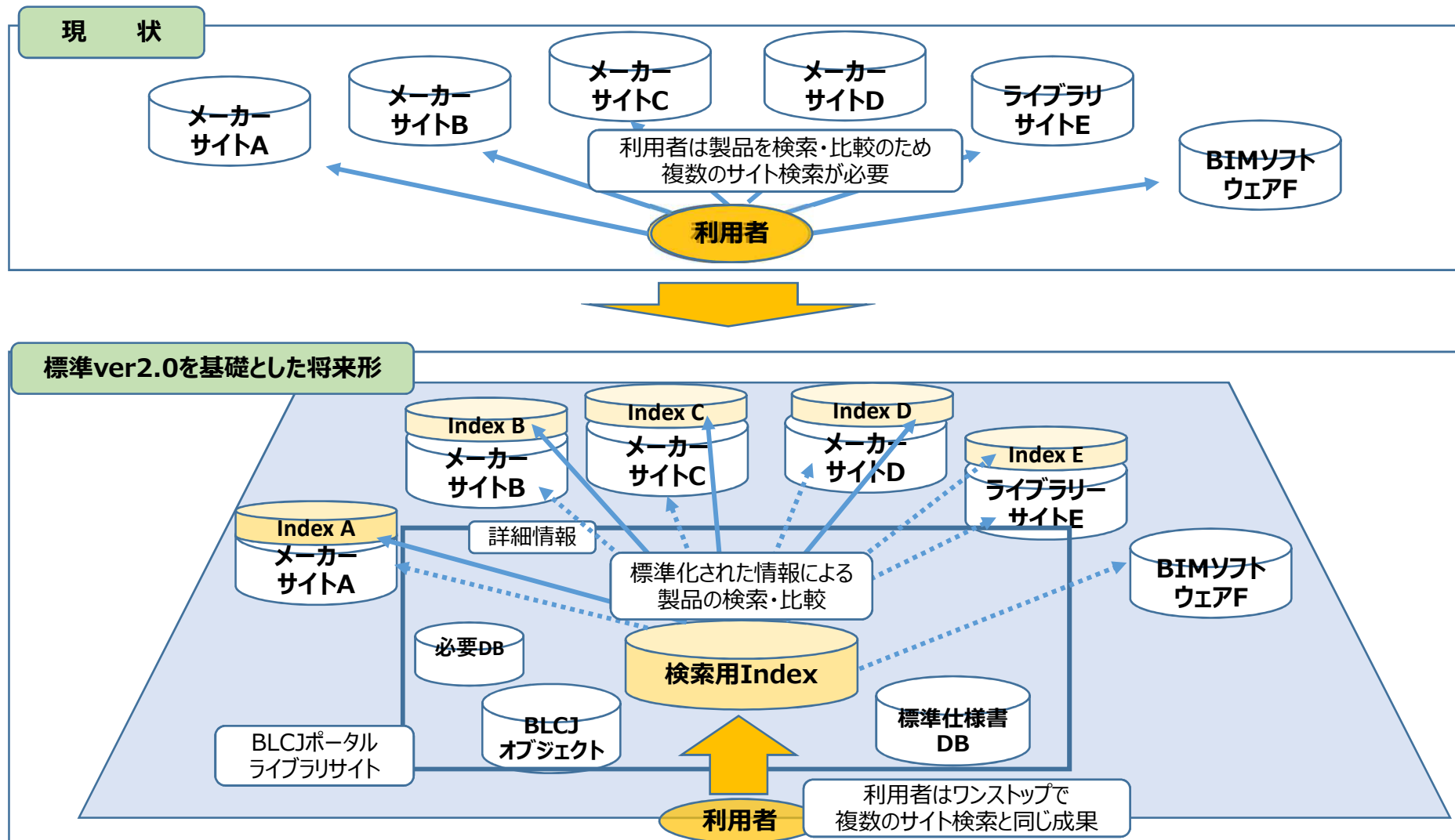
研究課題4:建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討 成果4:標準ver2.0の普及に向けた方策

・標準ver2.0の今後の手続きと、標準ver2.0の普及・実用に向けたフローを以下に整理。関係者との合意、課題の整理に一部着手。



研究課題4: 建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討 成果4: 標準ver2.0の普及に向けた方策

・民間ライブラリサイト、メーカーライブラリサイト、BIMベンダー等との連携を考慮したポータルの役割のBIMライブラリサイトを以下のように整理し、要件設定等検討。関係者との協議は一部実施。



研究課題4:建築実務での利用可能範囲の拡大に向けた検討 成果3:標準ver2.0、共通のID・仕様書IDの効果・メリット

・標準ver2.0、共通のID・仕様書IDの効果・メリットを以下に整理した。

対象者	想定されるメリット	現状と課題
発注者	○受注者等のメリットが、円滑なプロジェクト管理、良質な建築物の供給等に繋がり、 余分なコストを減らすことができる。	
受注者 設計者 施工者	○標準化された情報により、 円滑な情報連携、業務の効率化が図れる。 ○標準化された情報により 製品比較が容易 [スライド4,5,6,8,9,10,11,15]	○各企業が保有する既存のオブジェクトの活用 →インポートの開発で対応が可能 ○公開したくないノウハウ等の取扱い (テンプレート等)
確認検査機関	○ 確認検査に必要な信頼性のあるオブジェクトが供給 される。[スライド4,9]	
ソフトウェアベンダー	○標準化されたオブジェクトを前提とすることで、 ソフトウェア開発が効率化 される。 [スライド7,16,17]	○標準が多くの利用者に活用されることが前提。 ○標準の確定度、更新スケジュールも課題。
材料・機器等のメーカー	○各企業に標準化されたオブジェクトを提供することですむため、 業務が効率化 される。 ○標準化された製品情報によって 製品PR等が効率化 [スライド5,11,12,13,17]	○標準が多くの利用者に活用されることが前提。 ○標準の確定度、更新スケジュールも課題。